

## 2017年度 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価報告

松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会

2017年度学校関係者評価委員会は、「2016年度学校自己評価」（各学年担任団、校務担当の各部ごとに実施）、「2016年度学校評価アンケート」（全校生徒・保護者対象。以下「アンケート」）、「学校見分」（施設見学・行事見学・授業参観を今年度実施）にもとづき、学校運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告します。

本委員会は次の3点を柱として協議しました。

- (1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。
- (2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。
- (3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか。

### (1) キリスト教主義を柱とする人間教育が行われており、人格形成に寄与しているか。

キリスト教主義の教育というと、「礼拝」や「聖書の授業」がすぐに想起される。キリスト教主義の根底にはもちろんこれらがあるのだが、松蔭には小さなきっかけがたくさん施されている。一例として宗教部発行の「チャペル ニュース」が挙げられる。委員会による学校見分当日（11月2日）には中学生は「人権映画」（「パッチ・アダムス」）を鑑賞していた。「人権映画」の作品の選定は宗教部が行い、映画の内容や見てほしいポイントなどを「礼拝」で伝えている。また、毎年行われているバザーの収益もすべて寄付である。寄付先は生徒会が決める3団体と宗教部に縁のある3施設で、バザーにはPTAや同窓会も積極的に参加している。松蔭の中で自然に受け入れられているこれらの活動が「キリスト教主義を柱とする人間教育」に繋がっているのではないだろうか。他にも宗教部の直接の関わりではないが、文化祭に神戸市立盲学校の生徒・先生方をご招待し、学校を案内するなどの活動にも「キリスト教主義」が現れているとも言えるかもしれない。ボランティアスタッフとして毎年参加することで成長している生徒の姿もある。評価委員の当日のお話の中に、雨天時に「一緒に傘に入ってくださいませんか」という声をかけてもらった、というものがあつた。「キリスト教主義」と言っても、何か特別のものではなく、自然な流れの中で行われている「人間教育」に今後も期待する。

### (2) 学校生活のなかで健全な人間関係を構築する指導を実施し、その効果があがっているか。

さまざまな指導が丁寧になされているが、子どもの成長を願いつつ、対応に当たっていただくことを望む。今回の体育祭での高3の「ソーラン節」でも晴れの日を迎えるにあたり、人間関係でもめたり、生徒たちは「よい」体験をしたようだ。先生方もそのことを知っていながら、介入のタイミングを計っていたらしい。ともすると、失敗することを恐れるあまり、指示をしてしまう（生徒からすると指示待ちの）傾向があるが、子どもの力を信じ、任せることも必要になってくるのではないだろうか。

現在の男女共学志向が強い中で、「女子校」である松蔭の生徒の中にはもともとリーダーになる素質の生徒もいるが、女子校の雰囲気の中でこそ出てくる（活躍する）生徒もいるように思える。学校はそのような視点を保護者に提供してほしい。長い6年間の学生生活の中で生徒同士も自らの役割を見つけ、周りもその役割に気づいていくように見える。それが「女子校」の良さであり、松蔭の良さでもある。

### (3) 豊かな学力定着と進路実現をはかる教育が行われ、その効果があがっているかどうか

今年度の学校見分としては松蔭で行われている「特色のある教育」をご覧いただいた。今回は「大学特

別講座」と「ブルーアースプロジェクト」の導入授業がそれに当たる。9月19日の併設大に赴いた大学特別講座（高2の約8割が受講）は3年ぶりの見聞であった。前回見たときの印象と異なり、生徒たちは先生方の講義内容を興味深く聞いている様子が見て取れた。これは大学側によるアクティブ・ラーニング化を図った授業の改善も大きいと思われる。生徒の中には、この大学特講で「将来進みたい分野を発見した」という生徒もいると聞く。

また、今年度は「英語の松蔭」をキャッチフレーズとして全校「英検」受験をはじめ、英語を中心として授業に力を入れている様子が伝わってくる。目に見える形では英語の4技能のうち、「ライティング」の指導を強化したり、「オンライン英会話」の授業の導入など新たなものを生徒に提示した。

最後に松蔭独自の特色教育として「ブルーアースプロジェクト」は特筆に値する。もともとは進路決定者の高3が3学期を中心に「環境問題」の知識づけ、外部へのアウトプットを通じて自らに「自信をつける」様子が見られていたが、今年度はその活動を高1まで広げた格好になっている。指導する教員には困難が伴っている場合もあろうが、学校見分時に見た高1生徒の堂々とした話しぶりは、学習面における知識の伸長とは異なる「教育」を感じさせるものであつた。（ちなみにその生徒は高校から入学してきた生徒でした）教育とは知識や判断力を伸ばすだけでなく、子ども達の全人的な伸長を目指して先生方には努力をしてもらいたい。

以上、2017年度学校関係者評価委員会の報告とします。

(参考) 学校法人松蔭女子学院 松蔭中学校高等学校 学校関係者評価委員会規約（抜粋）第2条（目的）

この会は、学校の現状と課題を明らかにし、併せて教職員による自己評価について、学校関係者による評価を行い、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。

#### 第3条（活動）

この会は、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- 1、自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- 2、生徒・保護者による学校満足度調査結果により、学校の現状を把握する。
- 3、授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- 4、学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうか評価する。
- 5、その他必要な活動は、学校関係者評価委員の協議により行う。

#### 第5条（組織）

この会は、次の構成員によって組織する。

- 1、学校関係者評価委員 6～8名

保護者代表（PTA本部役員）、神戸松蔭女子学院大学代表、

卒業生（千と勢会）代表、その他学校関係者として校長が委嘱する者

- 2、校長、副校長、事務長 4名